

# 令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜城北高等学校

学校番号	8
------	---

## I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 一人一人の個性を伸ばすとともに豊かな人間性を培う。 (2) 学力の向上とともに幅広い教養を身に付ける。 (3) 社会に貢献できる心身ともに健やかな生徒の育成を図る。		
2 評価する領域・分野	◇ 図書部		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「図書室に興味をもてる楽しい本をそろえており、生徒はよく利用している。」という項目について、生徒の肯定的評価は63.4%となり昨年度より6.9ポイント上がっている。保護者については、肯定的評価は41.5%となり、昨年度より15.8ポイント下がっている。 ・多くの生徒に図書室を身近に感じてもらい、気軽に足を運べる場所にしたい。利用する生徒の幅を広げるような働きかけや雰囲気作り、読書の楽しさを経験させる取組が必要である。家庭でも読書をし、家族と読書について情報共有できるのが理想である。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒の健全な教養と読書習慣の育成を図る。読書を楽しみ、豊かな人間性をもつ生徒を育てる。 ◇各教科、系列、コースの学習内容に関連した図書の収集・整理・保存・提供をし、調べ学習の充実や学習の広がりを図る。 ◇図書委員の主体的活動を促し、本の紹介など全校生徒に向けての働きかけを活発化する。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・各教科（特に国語、家庭、芸術など）との連携 ・分掌（特に進路指導など）との連携		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 図書委員による図書館便りの作成 (2) 効果的なディスプレイによる新着図書の紹介 (3) 進路実現に役立つ本の紹介 (4) 百人一首大会の準備・運営	(1) 貸出冊数 (2) 授業や昼休み、放課後の図書室利用状況 (3) 生徒の意見や要望の数 (4) 図書委員の活動状況		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
・月に1回、図書館便りを発行し、教員と委員のお薦めの本を紹介した。また、それに合わせて放送による新着案内や利用の呼びかけを行った。 ・図書委員が作成したポップやディスプレイを図書室に飾り、親しみやすい雰囲気づくりを行った。 ・百人一首大会の準備として、ポスターの作成、当日の進行の打ち合わせを行った。 ・コロナ禍ではあるが、感染対策をした上で、分散して委員会活動を行った。	① 貸出冊数は増えているか  ② 朝や昼休み、放課後に訪れる生徒は増えているか。  ③ 図書委員は主体的に活動しているか。	A B C D  A B C D  A B C D	
11 成果・課題	○貸出冊数や図書室の利用人数は増えた。朝、休み時間、放課後などに生徒同士で本について情報交換を行い、生徒が司書や教員に助言を求めることもあった。「進路実現に役立つ本の紹介」のパンフレットを3年生の教室に掲示すると反応が良く、掲載された本を借りる生徒が例年より多かった。生徒自身が本で学んだことを更に発展させようとする姿も見られ、本校にない本は他校で借りるケースもあった。 ○放課後などに、委員の仲間と楽しみながらディスプレイを作成し、完成度の高いものを仕上げる事ができた。 ▲全校一斉朝読書の取組がなくなった。朝のショートホームルームで、5分以内でも可能な範囲で読書をするのが理想だが、本年度は実施が困難だった。朝は生徒へのタブレットの貸し出し、教室の移動、教員のICTの準備、コロナ感染予防に関する対応などで、じっくりとショートホームルームができなくなったというのがその理由である。しかし、空き時間に継続して読書をしている生徒が少なからず存在するので、多くの生徒が本に興味をもち、読書を習慣にできるような働きかけの工夫が必要である。		総合評価  A B C D
12 来年度に向けての改善方策案	図書室の蔵書の充実と利用度について、生徒・保護者から70%以上の肯定的評価を得ることを目標とし、以下の点に取り組みたい。 (1) 各教科との情報交換を活発に行い、授業での利用を働きかけ、授業をきっかけとして図書室へ足を運びやすい環境を作っていく。また、進路に関わる本を充実させ、随時一覧をクラスに掲示する。先生方からも本の活用方法について生徒に助言していただけるように、会議などで依頼し、利用を促していく。 (2) クラス単位での読書に関するロングホームルームなどで、生徒同士が本を紹介しあうような場面を設定して、情報共有の中から読書に関する意識を高めていく。		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月14日

【意見・要望・評価等】
・特になし